

2019年8月25日(日)／説教者：神谷武宏

説教：「神の大いなる救い」

聖書：創世記45:1～15

ヨセフの夢の解き明かしのとおり、エジプトの国に7年間の豊作の後、飢饉がやってきた。そのことがきっかけで、ヨセフは兄弟たちに再会することになる(42章)。ヨセフは一目で兄たちとわかる。兄たちには、まさか死んだも同然のヨセフが、エジプトの宰相になっているとは想像もつかないことである。

ヨセフの告白に兄たちは驚き、何も答えることができない(45:3)。「あなたたちが売った」という過去の罪が暴露されていく。しかしヨセフは、「これまでのことを悔やんだり、責め合ったりする必要はありません」(45:5)と兄たちにゆるしの宣言をする。ヨセフは兄たちの悪意やエジプトでの困難な事柄ではなく、「神が」その計画の中にいれて導いておられたという見方をする(45:8)。37章のヨセフにひれ伏す兄弟たちの夢の出来事が今、現実となる。

ヨセフは、過去の苦難も、現在の幸いも、すべては神のご計画の中にあることとして見る。物語の流れを見ている私たちにはそのことを理解し得よう。ただ私たちの人生に置き換える時、過去の苦難も、現在の状況も、神のご計画の中にと見ることが出来るか。すべては神の御手の中に・・・という信仰に生きる時、私たちもまた「神の大いなる救い」を見るように思う。

ヨセフ物語の中で、神が直接ヨセフに語りかけると言うことはない。ヨセフが、「これらの出来事は神が導かれたのだ」と告白している。「わたしの人生のなかに神が計画を持って働いておられる」との信頼は、ヨセフの中にあつた兄弟へのわだかまりを乗り越えさせ「ゆるし」の道を開いていく。ヨセフ物語は、壮大なドラマとして救いがもたらされる。何もヨセフだからではない。私たちの救いもまた、神の大いなるご計画によって導かれているのである。

(神谷)